

# 『商社の審査部ってどんなところ?』

中3 保護者



皆さんの商社マンに対するイメージってどのようなものでしょうか? 深田裕介のベストセラー小説『炎熱商人』の様に、アタッシュケースを片手に世界を股にかけて活躍する…でしょうか?

確かに商社は“カップラーメンからミサイルまで”と云われる様にたくさんの品物を扱い、世界の広範な地域に多くの分野に渡って手広く商売をしています。ですが、その世界を股にかけて活躍する商社にも様々な部署があります。

今からやろうとしている取引(商売)がリスクのないものか、その取引する相手は大丈夫かを徹底的に調べ上げて、その取引をやるかやらないかをジャッジメントする部署が、審査部という部署です。取引はどんな相手でも自由にやって良いというものではありません。何故ならその取引相手が倒産してしまいそうな脆弱な会社であったり、違法な組織(暴力団等)であったり、“アルカイダ”みたいなテロ組織であったりすると大変です。そんな会社や組織と取引すると大きな損害を受けたり、信用が失墜したりと大変な事になります。皆さんがコンビニやスーパーで物を買う場合、その場でお金を払って商品を受け取りますよね。これを“キャッシュオンデリバリー”(代金と引き換えに品物を渡す事)と言います。

ところが日本の多くの企業間では“掛売り”といって一定期間後に代金を貰う約束をして品物をするのです。従って、代金を貰うまでの間にその取引先が倒産してしまえば、大変なことになります。

審査部という部門は、信用調査会社(帝国データバンクや東京商工リサーチ等)から入ってくる情報や、独自に世界中に張り巡らされた情報網から、取引先に関連する情報をピックアップし、取引先が倒産する危険性が高いと判断されれば、直ちに代金が回収できないことが起きないように奔走する部署なのです。そこでは、表面的な情報ではなかなか見えてこない事実をたくさんの情報源や考察で炙り出し、法律上の技術を最大限活用します。その為には様々な法律の知識、経理・会計・税務の知識、財務分析の技法、様々な業界に関する知識、マネジメントシステムや経営に関する知識などがが必要です。

審査部の仕事は多岐に亘りますが、重要な仕事の一つに『財務分析』というものがあります。企業の決算書を読み取る仕事です。決算書って何?と思う方が大半でしょう。企業は法律によって一年間の経営成績や財務状態を記した通信簿を取引先やお金を貸してくれる銀行等の利害関係者に対し

て提出しないと決められています。その通信簿が決算書です。

決算書は企業の通信簿と言いましたが、皆さんの例で言えば数年間の通信簿の変化を分析して、自分はどの科目のどの分野が弱いのか、これからどういう部分を勉強していけば良いのかを考える事が『財務分析』なのです。決算書を読むと言う事は大変重要な事です。「私には関係無い」と思っている

方もいると思いますが、皆さんが将来、事業を起こして経営者になった時、会社に入って営業マン(ウーマン)になった時、取引する相手の経営状態を知る事は極めて重要な事ですし、もし知らなければ経営者、営業マン(ウーマン)失格の烙印を押されます。そこで皆さんに決算書を読むポイントをごく一部ではありますが記述します。

決算書と言われる会社の通信簿は貸借対照表(バランスシート)・損益計算書(P/L)・キャッシュフロー計算書・株主資本等変動計算書があります。この4つの書類がどうい変化をしているかを分析する事を財務分析といいます。

では、具体的にどこをチェックしたら良いのでしょうか? 企業の財務分析をするのに重要な指標と呼ばれるものに以下の①~⑤のものがありますので順に見ていきましょう。

- ①効率よくもかかっていますか? ⇒ 総資本経常利益率でチェック
- ②金利負担力の有る会社ですか? ⇒ I C R 値(金利負担能力)でチェック
- ③資金繰りは大丈夫ですか? ⇒ 当座比率でチェック
- ④借入金の依存度は? ⇒ 有利子負債構成比率でチェック
- ⑤この会社は安全な会社ですか? ⇒ 自己資本比率でチェック

以上が主な財務分析のおもだった指標です。これらと共にあと2つ企業の中身を見る上での大事な評価項目があります。

- ⑥借金苦になっていませんか? ⇒ 借入金月商倍率でチェック
- ⑦金回りはどうですか? ⇒ 経常収支比率でチェック

他にも沢山の分析する指標やポイントがありますが、とてもこの誌面には書ききれない程の膨大なものになりますので、割愛させていただきます。

清教学園の生徒であれば、将来経営者になる方も多と思います。是非、決算書が読める人になって頂きたいです。